



子供達の様子



野生のヌーの群れ

## NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会 ORMZ ニュース第 41 号 (H27.5.7)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



アフリカ

ザンビア

**はじめに** 平成 27 年 5 月、連休は有意義な日々だったでしょうか。

帰郷された方、旅行に行かれた方、あるいはお仕事で過ごされた方、様々かと思いますが、充実した日々であったことと思います。

今回は、ザンビアでの活動報告や、学生さんの感想文などをお伝えします。

### **会の経過報告 (27 年 4 月以降)**

- ・ 4 月 2 日 栄研化学株式会社から、「モダンメディア」第 61 巻 3 月号に「ザンビアでの巡回診療活動」が掲載されたとの連絡がありました。ご存じの方どうぞご覧になってください。
- ・ 4 月 11 日、5 月 2 日 臨時理事会を開催し、ザンビア現地事務所の体制を充実させるため（山元香代子先生が日本滞在中の現地代表代行業務対応、巡回診療の準備・車両管理のための人材補充）、ザンビアに滞在されている山本ひとみさんの臨時雇用、及び 5 月の使用期間を経ての 6 月からの現地活動コーディネーターの採用について承認していただきました。

### **ザンビア活動報告 (山元香代子先生から)**

みなさまお元気でお過ごしでしょうか。

日本は今、ゴールデンウィークですね。ザンビアは 4 月になっても雨が降り続き、どうなることかと思いましたが、中旬過ぎから雨がなく、毎日きれいな青空が広がっています。3 月は雨が少なく、4 月に降ったので、メイズ（トウモロコシ）の収穫がルサカ近辺ではよくないようです。

4 月になり、マラリアの患者が増えています。4 月 15 日ニャンカンガ地区、102 名中 45 名陽性 (44.1%)、4 月 22 日ルアノ地区、104 名中 54 名陽性 (51.9%) です。クリニカルオフィサーのムレタさんの住む地区では、21 歳の女性が 1 週間の発熱後、意識のない状態で連れてこられ、マラリア検査陽性で、すぐに近くのヘルスセンターに搬送されたのですが、亡くなられたとのこと。コミュニティヘルスワーカーやムレタさんには、十分量の抗マラリア薬を提供したいと考えています。また、マラリア患者の中には蚊帳を使っていない人もみられ、新たに蚊帳を 30Kwacha で購入し、5Kwacha で販売しています。みなさまの支援のおかげで、十分量の抗マラリア薬、蚊帳を購入することができます。ありがとうございます。



ルサカ



蟹江先生の診察風景

2015/04/15

4月15日のニャンカンガ地区の巡回診療には三重大の研修医の先生1名と藤田保健衛生大学の医学生3名が同行しました。4月22日のルアノ地区には研修医の先生1名、藤田の医学生2名、三重大の医学生2名が同行しました。ニャンカンガは患者数171名、ルアノは143名と忙しく、学生たちに十分な説明もできなかったのですが、それぞれ仕事を見つけて手伝っていただきました。研修医の蟹江先生には診察をお願いしました。皆さんの巡回診療に関する感想は後ほど送っていただけることになっています。

ニャンカンガへの行きの道中で、古いタイプのランドクルーザーの左の後輪のナットが外れ修理が必要でした。帰りは新しいランクルの車輪のナットがゆるんで、何度も締めながら帰ったのですが、途中大きな音がしたと思ったら、左の後輪が目の前を走って、右脇の野原に飛んでいきました。幸いなことにゆっくり走っていて、田舎の道ですので対向車もなく、大事にはいたりませんでした。また、携帯電話の通じる地域で、ムレタさんらを送り届けるために別の道を走っていたスルさんと携帯で連絡がとれ、1時間後ぐらいに現場に急行してくれました。真夜中です。このまま野宿かなと思いましたが、2人の運転手は何とか走れるまでに修理しました。ルサカの事務所に着いたのは、午前3時前でした。



車の修理の様子

雨季で道路状況が悪い中、2台のランクルを修理しながら使っていて、巡回診療時は1人臨時の運転手を雇いますが、普段はスルさん一人で車の修理維持に当たっています。無理があったと反省して、もう一人の運転手テンボさんの雇用を考えています。(臨時理事会で承認していただきました)

理由はわかりませんが、首都ルサカでも断水が増え、朝方少し水道から水が出て、昼間から夜にかけて全く水が出ない日がこの1週間で3日ほどありました。20Lの容器などに水をためておくのですが、出ない地区は何日も完全に断水らしく大変です。また、夕方の停電も続き、ほんとうに寝るしかありません。



スタッフ全員と

いろいろありますが、元気で仕事をしています。どうぞみなさまもお元気でお過ごし下さい。

### **ザンビア活動報告（学生さんの感想文：3月18日ニャンカンガ巡回診療同行の際のもの）**

杏林大学医学部1年 藤井彩乃

今回の AVP 派遣 (Africa Village Project : 国際医学生連盟) を通してザンビア国内の様々な活動を見せていただいたが、その多くがポイントを絞った支援を行っていた。そういった中で山元先生のお力で始まった ORMZ の活動は興味深く感じた。診察が始まる前からたくさんの方が集まり、受付では長蛇の列ができていて、800冊



以上あるカルテの中から患者さんも一緒になって自分のカルテを探し出す。少ないスタッフがそれぞれ違う役割を担い、マラリア診断テストを行ったり、下痢や咳の診察から乳児健診、妊婦健診、ファミリープランニングまで包括的な医療を提供しており、その様子は需要に応える支援とはこんな姿なのだなと感じるものだった。患者さんとの関わりは少しぶっきらぼうに感じたが最後の一人が帰るまで見守り、終わった後はスタッフ同士が達成感のような温かい雰囲気の中においてとてもすてきだった。

たとえ月にたった数回でも医療があるのと全くないのとでは精神的な部分で人々の感じる安心感はかなり違うのだと思う。そういった意味でこの土地での活動は大きな役割を持っているのだろう。



一つ気になったのはごみの処理だ。一日の診察が終わって出たごみのごみ置き場に捨てられ、犬がそれをあさっていた。ザンビアではすべてが埋め立てて処理されているが、今後国として発展していく中でごみの処理は必ず課題として挙がってくる。自然と共存している村の人々が、ペットボトルやビニールを平然とした顔でポイ捨てるのを見るのは心が痛い。すでにごみ問題に取り組んできた日本人がこの地で関わっているからこそ、ザンビアでもできる方法で何か取り組むことができればと思う。

もしまた訪問する機会があったならば、村の人々が ORMZ をどのようにとらえているのか、医療が入ったことで変わったこと、変わってしまったことは何なのか、直接聞いてみたいと思っている。ORMZ の活動を見せていただいたことは、将来自分が海外で働くうえでどのような医療が求められていくのか考える一つのきっかけになったと感じている。

**\*ゴミの処理について：** 診療後のごみはコミュニティボランティアが危険物はトイレに廃棄、他のものは一括して廃棄することになっているのですが、再度話し合って徹底したいと思います。ご指摘ありがとうございました。山元香代子

### 札幌医科大学医学部 3年 青木一毅

今回はニャンカンガという地域で行われている月に1度の出張検診を見学させていただきました。

ルサカから車を走らせること 3 時間。その道中はとても道とはいえない、山の中の舗装されてない凸凹道でした。このようなところでも、診察が始まり気づいたら診察の小屋の前には数えきれない人々が並んでおり、この山のどこにこれほどの人々がいたのかと目を疑うほどでした。このようにアクセスが非常に悪い地域のため、政府に見捨てられてしまい、医療がまともなクリニックが一つもないが、そこにはこれほど多くの人々が住んで暮らしている。人が住んでいれば当然人々は病気に苦しみ、医療を必要とする。しかし、まだ病気になっていない人もしっかりと健康管理ができなかったり、病気に対する知識不足のせいで今後病気にかかる可能性は高い。このような巡回診療はたとえ月 1 回だとしても、この地域に暮らしている人々にとっては非常に大切な時間なのだろう。そしてとても心待ちにしている時間なのかもしれない。空き時間に僕は辺りを散歩した。散歩の途中ところどころ村がいくつかある道もあったが、患者が歩いてきた道を逆方向に 30 分間歩いても全く村の気配が感じられない道もあった。その日はとても暑く、帰りのことも考えると片道 30 分であきらめてしまった。どれほど遠くの村から来ているのだろうと考えたら気が遠くなった。この炎天下の中でもたくさんの人々が日陰で自分の番を待っていたり、親が終わるのを子供たちが遊びながら待っていたり、お母さん同士で久々に会ったのかとても楽しそうに談笑していたりで、とても賑やかであった。僕らは、暑さに我慢するのに必死だったのに、みんなとても楽しそうでした。この巡回診療は、人々の病に対する不安を取り除くだけではなく、人々の良きコミュニティとしても機能しているように思えた。それと同時に、そこで働くスタッフの姿はとてもまぶしく見え、そしてとても生き活きと働いているように見えた。スタッフ皆がすばらしいチームワークで自分の担当の仕事をこなしつつ、誰かが困っていたら共に助け合って診察している。この活動のおかげで、患者もスタッフもより良い人間関係を築くことができ、そのためのコミュニティとしての機能も果たしているように感じました。



都会や街での診療も大切だが、どんなに環境の悪い場所であっても、人々がそこで生活している限り、このような巡回診療はなくてはならない活動だと改めて感じました。

### 旭川医科大学 2年 山縣弘規

ORMZ は、ザンビアで辺地医療を行っている山元香代子先生の活動を支援するために 2012 年に設立された団体であると知りました。このプロジェクトは当初、日本国内の NPO からの支援で行われていました。しかし、支援が打ち切られた 2011 年 12 月からは、山元先生の自己資金のみで対応せざるを得ない状況にな

り、その後、先生の自己資金で、薬品・器材の購入、活動参加協力者への日当支払、運転手の給料、ディーゼル代、車の維持費など全てを賄われてきました。このように、自己資金や労力を支援のために使うことができる山元先生は、とても偉大な方であると感じました。

ルサカから車で3~4時間程、草むらになっている道を進んだ後、途中で ORMZ のボランティアスタッフやクリニカルオフィサーと合流しつつ、ニャンカンガ地区のヘルスポストに到着しました。このように、ニャンカンガ地区のヘルスポストまでは、我々もスタッフも片道だけで3~4時間、往復だと8時間、1日の3分の1もかけて出張健診に行くため、とても疲労してしまいました。このヘルスポストは、在住するボランティアスタッフやクリニカルオフィサーが存在するわけではなく、月に1度だけ、このような形でルサカからスタッフが派遣されることによって診療所が開かれる、移動型クリニックとなっていました。このような状況で診療に関わっているスタッフと深くお話をする機会を得ることができたのだが、みんな給料をもらっているわけではなく、自発的なボランティア精神と、山元先生を尊敬する気持ちから診療を行っている様でした。また、このように、1日の3分の1もの時間を移動に充てて向かわなければいけない場所にもたくさんの診療を待っている患者が居るということだと思いました。私が住む旭川という人口36万人の市の中に病院は車で5分間運転するだけで、3~4つの病院にたどり着くことができます。先進国である日本とアフリカではここまで差が出ているということを目の前で実感し、とても驚きました。



そのようなザンビアの現状に対する支援の在り方の様子や、診療を行う体勢の様子は、日本で多く見受けられるものではなく、日本などの先進国が困窮している状況においては、確立させたいものであると感じました。また、山元先生のように、アフリカの人を動かし、自国から遠く離れた国の医療を確立させてしまうような日本人の活躍を目の当たりにすることができ、とても感激しました。

過去に自分が大学の説明会を受けた際に、山元先生の大学時代の同級生という方から、アフリカと日本を股にかけて活躍している医師について紹介を受けたことがありました。当時から3年近く経ち、今回 ORMZ を見学させて頂くことになり、ふとそのことが思い出されました。今回の見学の際、山元先生にお会いすることはできなかったのですが、もしもお話する機会があれば、このようにアフリカに支援をするようになったきっかけや、生じる問題点や、やりがいなどを、お話をしてみたいと思いました。

**賛助会費の納入について** 認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は1月から12月です。どうぞ賛助会費(個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上)のご協力をよろしくお願い致します。入金を確認しました際には、日高からその旨のメールを差し上げていますので、メール連絡が無い場合は問い合わせの連絡をお願いします。どうぞよろしくお願い致します。

すでにご案内の通り、賛助会費についても寄附と同様、税控除の対象となります。後日、寄附受領証明書をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。

また、郵ちょ銀行以外の銀行から WEB で振り込まれる際は、できましたら付加情報として住所、氏名(漢字)を加えていただきますと対応しやすい(何もしないとカタカナの氏名のみ)です。よろしくお願い致します。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351  
加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351  
加入者名： NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称(全角)：トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウオシエンズルカイ (注：ヲ→オ)

平成27年もどうぞご支援のほどよろしくお願い致します